

高校日本史プリント（過去問類似）

日本史B（旧課程の過去問） No.6

名前

得点

/9

問1 自由民権運動期の思想家である植木枝盛が起草した私擬憲法で、一院制や徹底した人民主権、さらには政府に対する抵抗権や革命権を規定したことで知られる憲法草案は何か。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 五日市憲法草案 2. 交詢社憲法案 3. 日本憲法見込案 4. 東洋大日本国国憲案

問2 大正デモクラシー期の1925年、加藤高明内閣のもとで行われた軍縮にともない、将校の余剰人員の活用や国民の軍事組織化を目的として制定された、中等学校以上の学校に軍人を派遣して軍事訓練を行わせる根拠となった法令は何か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 陸軍現役将校学校配属令 2. 国家総動員法 3. 青年訓練所令 4. 国民学校令

問3 明治政府は、欧米諸国に対抗して国家の近代化を急ぐため、産業の育成と資本主義の発展を目指す政策を推進した。その一環として、西洋の先進的な技術や機械、制度を国内に導入・移植するために、政府が直接経営し、民間企業の模範とさせた施設を総称して何というか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 横須賀造船所 2. 大阪砲兵工廠 3. 東京砲兵工廠 4. 官営模範工場

問4 戦国大名である織田信長は、尾張から勢力を広げて天下統一へと乗り出した。信長が駿河の今川氏を破ったのち、足利義昭を奉じて京都へ入った。その後、三河国において徳川家康と連合し、甲斐の武田氏の軍勢を多数の鉄砲を用いて破った。この、武田勝頼の軍を破った戦いの名称を答えよ。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 姉川の戦い 2. 長篠の戦い 3. 山崎の戦い 4. 厳島の戦い

問5 戦国大名の出自は多様であり、在地の領主である国人から台頭した毛利氏や、実力で主君を打倒した下剋上の例などが知られる。これに対して、甲斐の武田氏や駿河の今川氏のように、室町幕府から特定の令制国の軍事・行政権を認められていた伝統的な家系が、その権力を維持・強化して戦国大名へと移行したケースもある。この移行元の役職を何というか。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 守護 2. 地頭 3. 代官 4. 探題

問6 鎌倉時代には、新仏教の開祖の生涯や布教の足跡を描いた作品が数多く制作された。このうち、全国を巡行して踊念仏を広めた宗派の開祖の生涯を描き、当時の地方の市（市場）や庶民の生活、武士の館などの様子を写實的に伝えている、法眼円伊が描いたとされる絵巻物は何か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 春日権現験記 2. 一遍上人絵伝 3. 法然上人絵伝 4. 西行法師絵伝

問7 平安時代中期の公卿で、有職故実に通じ「賢人」と称された人物である。彼は、当時の最高権力者である藤原道長の栄華の様子や朝廷の儀式・政治を詳細に記録した日記『小右記』を執筆した。この日記の著者である人物の氏名として最も適当なものを答えよ。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 藤原頼通 2. 藤原行成 3. 藤原実資 4. 藤原道長

問8 明治時代の思想家である中江兆民が、漢訳書『民約訳解』を通じて日本に紹介し、自由民権運動の理論的支柱となった、フランスの思想家ルソーの代表的な著作は何か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 市民政府論 2. 神学政治論 3. 政府二論 4. 社会契約論

問9 1937年に盧溝橋事件を契機として日中戦争が勃発すると、当時の近衛文麿内閣は、挙国一致や尽忠報国などを掲げて国民を戦争へと動員・組織化するためのキャンペーンを開始した。職場ごとに結成された組織などを通じて、国民の私生活や思想の統制、戦争への協力を強要したこの運動の名称を何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 国民生活新体制運動 2. 国民精神総動員運動 3. 国民精神作興運動 4. 農山漁村経済更生運動

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 4 東洋大日本国国憲案	明治初期の自由民権運動期には、民間において独自の憲法草案（私擬憲法）が数多く作成された。植木枝盛が起草したこの草案は、一院制や徹底した人民主権を掲げ、政府が国民の権利を侵害した場合には抵抗権や革命権（顛覆権）を行使できるとする、当時としては極めて急進的かつ民主的な内容を含んでいたことで知られる。
問2	答え 1 陸軍現役将校学校配属令	1925年、宇垣軍縮によって生じた陸軍現役将校の余剰人員を有効活用するとともに、学生・生徒に対する軍事訓練（学校教練）を通じて国民の軍事組織化を図るため、陸軍現役将校学校配属令が制定された。これにより、中等学校以上の学校に現役将校が配属されることとなった。
問3	答え 4 官営模範工場	明治政府は、資本主義の育成を目指す殖産興業政策のもと、富岡製糸場や新町屑糸紡績所などの施設を各地に設立した。これらは政府が直接運営し、西洋の近代的な技術や労働管理制度を国内に導入・普及させるための模範としての役割を果たした。のちに、政府の財政難や民間産業の成長に伴い、1880年の概則制定を経て、これらの多くは民間に払い下げられることとなった。
問4	答え 2 長篠の戦い	織田信長は1560年の桶狭間の戦いで今川義元を破り、1568年には足利義昭を擁して上洛を果たした。その後、1575年に三河国の長篠城をめぐり、徳川家康とともに武田勝頼の軍勢と対峙した。この戦いにおいて、信長は鉄砲隊を組織的に用いて武田の騎馬隊を破り、天下人としての地位を固めていった。
問5	答え 1 守護	室町幕府のもとで国ごとに置かれた軍事・行政の長である守護は、国内の武士を組織化して守護大名へと成長した。戦国時代になると、その地位や権威を背景にそのまま戦国大名へと脱皮する者が現れた。一方で、守護の代理である守護代や、在地の国人などが実力をつけて守護を圧倒し、戦国大名となる下剋上の動きも活発化した。
問6	答え 2 一遍上人絵伝	時宗の開祖である一遍の生涯や布教の旅を描いたこの作品は、鎌倉時代後期に一遍の弟子である聖戒が企画し、法眼円伊が作画したとされる。全国各地の景観や、備前国福岡の市に代表される当時の交易の様子、庶民や武士のリアルな生活実態が細かに描写されており、美術的価値だけでなく、中世社会史の貴重な歴史史料として高く評価されている。
問7	答え 3 藤原実資	小野宮流の公卿である藤原実資は、藤原道長が権勢を振るった時代に、道長に対して毅然とした態度を取りつつも、その栄華の様子（「望月の歌」など）を自身の日記『小右記』に克明に記録した。実資は実務や儀式に精通しており、その日記は当時の政治社会を知る一級の史料となっている。
問8	答え 4 社会契約論	中江兆民が翻訳した『民約訳解』の原著は、フランスの啓蒙思想家ルソーが著した『社会契約論』である。この著作で説かれた人民主権や社会契約の思想は、明治期の日本において天賦人權論として受け入れられ、自由民権運動の急進派に強い影響を与えた。
問9	答え 2 国民精神総動員運動	1937年の日中戦争開始に伴い、第1次近衛文相内閣のもとで開始された国民統制・動員運動。この運動の一環として、職場ごとに産業報国会が組織され、労働争議の禁止と生産増強が図られた。なお、1942年の翼賛選挙は東条英機内閣期に行われたものであり、時期や内閣が異なる。